

第3回札幌文化芸術未来会議 議事概要

■日時：令和3年3月30日（火）13:00～16:30

■会場：北海道教育大学札幌駅前サテライト「教室1」

■出席者 委員：

いとう ちおり
伊藤 千織／伊藤千織デザイン事務所 代表

うるし たかひろ
漆 崇博／一般社団法人A I Sプランニング 代表理事

おおとも えり
大友 恵理／社会福祉法人ゆうゆう 芸術文化推進室 学芸員

おざき かなめ
尾崎 要／アクトコール株式会社 代表取締役

きの てつや
木野 哲也／ウタウカンパニー株式会社 代表

かじた し の ぶ
カジタ シノブ／インタークロス・クリエイティブセンター ディレクター

こいえ まきのぶ
古家 昌伸／北海道新聞社編集局文化部長

こじま たつこ
小島 達子／株式会社 tatt 代表取締役

さかい しゅうじ
酒井 秀治／株式会社 SS 計画 代表取締役

はちじょう みなこ
八 條 美奈子／札幌フルーツ協会 副会長

みん じんきょん
関 鎮京／北海道教育大学岩見沢校 准教授

もりしま ひろし
森嶋 拓／北海道コンテンポラリーダンス普及委員会 委員長

やまもと ゆうき
山本 雄基／画家

欠席：さくま もとまさ
佐久間 泉真／大学生（市民委員）

事務局：

札幌市市民文化局文化部長 有塚 広之

札幌市市民文化局文化部文化振興課長 木戸 拓史

札幌市市民文化局文化部文化振興課企画係長 信太 希久子

札幌市市民文化局文化部文化振興課企画係 木村 謙太

株式会社ノーザンクロス 島崎 伸洋

傍聴（オンライン）：なし

■議事概要：

1 アンケートの結果について（事務局説明）

○アンケートは、委員の皆様に関係者への周知、回答協力への働きかけなど、ご協力をいただいた結果、個人、団体合わせて1,505件の回答をいただいた。

○次回の4回目以降はアンケート結果も素材としながら、札幌の文化芸術の振興のために、今、何が必要か、何をしていくべきか、未来会議の委員の皆様にご意見をいただき、札幌市として今後進めていくべき文化芸術の施策の検討材料としたい。

2 アンケート集計内容について

(1) 事務局説明

アンケート集計内容に沿って説明。

(2) 委員からの質問、意見

ア アンケートに追加してほしい分析など

- 自由記述の意見はクリティカルな意見が多いと思われるので、そこを拾えるようにしてほしい。
- 関わりのある他分野と、関わりを持ちたいと考えている他分野について、差が表れるようなグラフがあると、意識の変化がもっと明確になるのではないかと。
- 所得の変化がアンケートから読み取れたが、創作発表、企画制作、技術提供などというセグメントでどこに所得の変化が一番あったのかを見たい。
- 団体に加盟している構成人数の分布が見たい。
- アンケートのポイントをまとめた短観があるとよい。
- どんな文化活動で、どのくらいの収入を得ているのか知りたい。
- 収入源、年代、性別のクロス集計のほか、ジャンルについてもクロス集計がほしい。

イ アンケートに関する意見

- 2,000人を目指したが、達成できなかったのは残念。
- アンケートに答えていない人達の意見をどう吸い上げるかということも必要。
- コロナに関する2019年と2020年の動きは想像通りであった。普段がどうなのか。
- 若い世代がどのような意識を持っているのか、ピックアップしてみたいと感じた。
- アンケートの多寡にかかわらず、これを材料としてこの会議で話し合い、札幌市にその内容を採用してもらうのが未来会議の役割だと思う。
- 少数の尖った意見がぼやけてしまわないようにすることも私たちの仕事。
- 男女で収入の大きさや層がくっきり分かっていたのが気になった。
- 活動の理由は趣味や余暇活動の充実が一番になっているが、自分たちとしては趣味ではない芸術活動を行っていくために何を考えたらよいのか、調査結果を上手く使っていきたい。
- アンケートの数字から、団体の規模感にギャップが相当あると思われ、小規模でやっている、より切実な部分に注目して読み解きができるとよいと考える。
- 文化芸術では食えないと昔から言われるが、本当にそうであることがわかっただけでもアンケートをしたかいがあったと思う。

- 札幌市は文化施設もすごく充実しており、文化的なイメージがあるが、ソフトとしての人が生活していくのはなかなか難しいということが現実ということ。
- アンケートに携わってくれた団体のリストを更新してほしい。
- 教育に関わっている人たちは創作のジャンルが大多数なのは。他のジャンルが教育まで行き届いていないということがわかる。
- 全世代から満遍なく回答されているのはすごくいいことだと思う。
- 他の分野への参入に対して肯定的な方が多いのだと感じた。これは文化芸術の収益性が低く、他の分野と協働して収入を得ようという考えもあるのかもしれない。
- アーティストの意識について、育てる側の意識を高めることも必要であると思う。芸術を社会にどう還元していくか、それをどう自分の生活に結びつけるかの教育なども行い、成熟した文化と経済が両立する社会にしていかなければいけないと思う。
- 演劇のジャンル分けをもう少し多くすべきだった。
- 20代、30代は、芸術で食べて行きたいという意思が強いことが見て取れた。これからこういう人たちが本当に食べていけるようなプラットフォームのようなものが必要。
- 課題については、端的にいうとお金がないという回答が多いが、これはマネジメントの力が弱いと感じているということかと思った。どのようにしたらそれを学べるかという方に目を配ることも必要な気がした。
- 文化芸術活動を生業としたいが、今はそうになっていないというところのために未来会議があるのかと思う。

3 今後の進め方について

(1) 事務局の説明

- 札幌市からの提案であるが、年内を目処にいくつかのテーマを決めて意見交換をしていただき、その後3月までの間にそれまでの意見交換の内容をまとめていただくのはいかがか。
- その中で、短期的に実現が望ましく札幌市の来年度予算で要求して行った方がよい内容のものは、札幌市の庁内的なプロセスのタイミングから、7月いっぱいまでに決めていただく必要がある。
- そのため、7月くらいまでに短期的な視点の施策についてご議論いただき、その後中長期的な視点でご議論をいただければと考える。
- 意見交換をいただくテーマは、皆さんにお任せしたいと思うが、札幌市として2点取り上げていただければと思う。
- 1点目はウィズコロナ、アフターコロナにおける支援のあり方。
- 2点目は、札幌市の戦略ビジョンや第3期文化芸術基本計画にもあるように、文化芸術の持つ多様な価値や創造性を他の分野に生かしていくことが重要であると思っていることから、文化

芸術と他の分野との連携について、具体的にどのような展開がなされていくと札幌のまちがより良くなっていくのかについて意見交換をいただければと思う。

(2) 戦略ビジョン等に関する情報提供

検討の参考として、関委員長から委員に対し、札幌市まちづくり戦略ビジョン等に関する情報提供があった。

(3) 進め方等に関する委員からの意見

- アートマネジメントに対する政策がちょっと薄いと感じる。
- アフターコロナ戦略は必要性を感じるが、他分野との連携については、その前に芸術活動への支援策など、取り組むべきところがあるのではないか。
- 札幌市がどのような事業を行っているのかの資料が欲しい。
- 短期的、中長期的などの話から、根本的に考え方を変えていくということが必要なのかと思った。
- 進め方としては、せっかくアンケートがあったので、フラットな感じでみなさんが必要だと思う提案を持ち寄り、検討していくことではいかがか。
- アンケートの結果を冷静に見て、短期的なものの中長期的なものについて、取り組みやアイデアみたいなものを宿題として持ち寄るようなスタイルではどうか。
- オリジナルの企画でも事例でも良いので、役に立ちそうなもの、共有出来そうなものを、予算も含めて持ち寄るということではどうか。
- 次回は4月末が良いと思う。

(事務局)

- 札幌市の事業内容の資料を作成次第お送りする。また、4月中の開催について、改めて日程調整させていただく。